

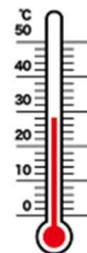
今後、気温が高く経過する見込み！ 苗のヤケ・老化に注意！

●高温に注意！ (天気予報を参照)

4/23 から 5/22 の気温は、平年より高い見込み。

特に、期間のはじめはかなりの高温になる見込み。(気象庁 1 か月予報)

⇒ 晴天時にはハウスをしっかりと開放し、苗の高温障害や老化を防止しよう！



1 育苗後半のポイント ～急な天候・気温の変化に最後まで注意を～

【温度】緑化期以降の温度管理：日中20～25℃、夜間8℃以上に。

移植1週間前からは昼夜ともにハウスを開放し、外気温に慣らす。

【水管理】午前中の早い時間にたっぷり水をかける。

床土が白く乾いたり、葉が巻き始めたら十分に灌水する。

但し、午後3時以降は灌水しない。

※ 高密度播種(密苗、密播)のポイント

- ①慣行移植以上に高温管理を避ける。
- ②苗の蒸散量が多いので十分な灌水を。
- ③育苗日数20日を目標に遅れずに移植する。

2 移植のポイント ～適期内の天気の良い日に移植し、活着促進を～

【移植時期】収量・品質及び食味を安定させる移植適期は5月10日～20日頃。

※ 移植時期が適期より遅れると、
穂数が減少し収量が減少する(図)。

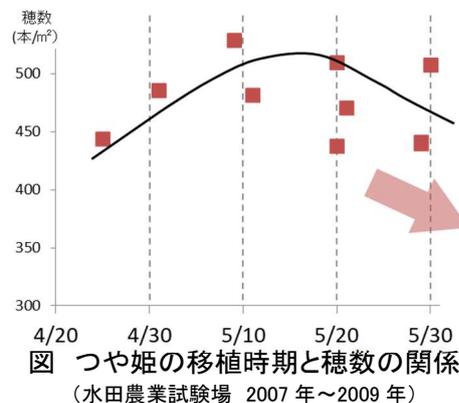
【天候】移植は風が弱く温暖な日に！

※ 低温や強風の日に移植すると、植え傷みを招き、活着や初期生育の不良を招く。

【栽植密度】70株/坪程度、植込本数は4～5本/株、
100本/m²前後を基本とする。

※ 極端な疎植は、莖数不足による収量低下につながる。

【植付け深】3cm程度に。 ※ 深植えにすると、分けつの発生が抑制され、莖数が増えない。



3 移植後の水管理のポイント ～きめ細かい管理で初期生育促進を～

- ①田植後は、活着するまで水深4～5cm位にして、新根の発生を促す。(苗の保護)
- ②活着したら、水深2～3cmの浅水で水温を高め、分けつ発生を促す。
- ③強風や低温が続くときは、水深をやや深めにして稲体を保護する。
- ④除草剤を散布した後は、7日間は止水し、落水・かけ流しはしない。

春季農作業事故防止強化期間 4/1～6/10 実施中！

心にゆとりをもって、農作業安全に努めましょう